

```

*****
**                                     **
**                               Systemwalker Centric Manager                **
**                               稼働状態(ノード状態)の監視履歴参照コマンド    **
**                               使用手引書                                    **
**                                     **
** [改版履歴]                                                                **
**                                     **
** Ver | 変更内容                                                                **
**-----|-----**
** 1.0 | 新規作成                                                                **
** 1.1 | 対象製品を追加                                                            **
**                                     **
*****

```

はじめに

本書は、稼働状態(ノード状態)の監視履歴参照コマンドの使用方法について説明したものです。

高度な安全性が要求される用途への使用について  
 本機能は、一般事務用、パーソナル用、家庭用、通常の産業等の一般的用途を想定して開発・設計・製造されている製品に対する機能であり、原子力施設における核反応制御、航空機自動飛行制御、航空交通管制、大量輸送システムにおける運行制御、生命維持のための医療用機器、兵器システムにおけるミサイル発射制御など、極めて高度な安全性が要求され、仮に当該安全性が確保されない場合、直接生命・身体に対する重大な危険性を伴う用途（以下「ハイセイフティ用途」という）に使用されるよう開発・設計・製造されたものではありません。  
 お客様は当該製品を必要な安全性を確保する措置を施すことなくハイセイフティ用途に使用しないでください。また、お客様がハイセイフティ用途に本機能を使用したことにより発生する、お客様、または、第三者からのいかなる請求または損害賠償に対しても富士通株式会社およびその関連会社は一切責任を負いかねます。

Microsoft、WindowsおよびWindows Serverまたはその他のマイクロソフト製品の名称および製品名は、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Intel、Itaniumは、米国およびその他の国におけるIntel Corporationまたはその会社の商標または登録商標です。

SolarisおよびすべてのSolarisに関連する商標およびロゴは、米国およびその他の国における米国Sun Microsystems, Inc.の商標または登録商標であり、同社のライセンスを受けて使用しています。

Linuxは、Linus Torvalds氏の米国およびその他の国における商標または登録商標です。  
 Red HatおよびRed Hatをベースとしたすべての商標とロゴは、Red Hat, Inc.の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

その他、本書に記載されている会社名および製品名は、それぞれ各社の商標または登録商標です。  
 All Rights Reserved, Copyright FUJITSU LIMITED 2008-2009

本文中の記載内容は予告なしに変更される場合があります。

1. 機能概要

本コマンドは、Systemwalker Centric Manager における稼働状態(ノード状態)の監視の保守情報の履歴から、任意のノードに関する情報を抽出します。  
 この情報を元に、設定した稼働状態(ノード状態)の監視ポリシーに従って、監視が行われていること、および、実際に監視が行われた時刻を確認することができます。  
 ※保守情報の履歴から抽出可能な情報は、環境により異なります。

2. 提供モジュール

本機能により提供されるモジュールは、以下のとおりです。

- ・稼働状態(ノード状態)の監視履歴参照コマンド  
 [Windows版 / Windows for Itanium版]  
 mprnmsrt.exe  
 [Solaris版 / Linux版 / Linux for Itanium版]  
 mprnmsrt
- ・使用手引書 (本書)  
 readme.txt

3. 動作環境について

本コマンドは、以下の環境で動作します。

### 3-1. OS

[Windows版]

- ・Windows(R) 2000 Server
- ・Windows(R) 2000 Advanced Server
- ・Microsoft(R) Windows Server(R) 2003
- ・Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2
- ・Microsoft(R) Windows Server(R) 2008

[Windows for Itanium版]

- ・Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 for Itanium-based Systems
- ・Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 for Itanium-based Systems

[Solaris版]

- ・Solaris(TM) 9 Operating System
- ・Solaris(TM) 10 Operating System

[Linux版]

- ・Red Hat Enterprise Linux 5(for x86)

[Linux for Itanium版]

- ・Red Hat Enterprise Linux 5(for Intel Itanium)

### 3-2. 製品

[Windows版]

- ・Windows版 Systemwalker Centric Manager V13.2.0~V13.3.0

[Windows for Itanium版]

- ・Windows for Itanium版 Systemwalker Centric Manager V13.2.0~V13.3.0

[Solaris版]

- ・Solaris版 Systemwalker Centric Manager V13.3.0

[Linux版]

- ・Linux版 Systemwalker Centric Manager V13.3.0

[Linux for Itanium版]

- ・Linux for Itanium版 Systemwalker Centric Manager V13.3.0

### 3-3. インストール種別

- ・運用管理サーバ
- ・部門管理サーバ

## 4. インストール・アンインストールの手順

### 4-1. インストール

[Windows版 / Windows for Itanium版]

- (1) Administrators権限のユーザでログインします。
- (2) ダウンロードした自己解凍形式ファイル(mpnmsrt\_V1.0.exe)を実行し、展開します。
- (3) 展開されたモジュールは、任意のフォルダで実行可能です。他のフォルダで使用する場合は、mpnmsrt.exe をコピーしてください。

[Solaris版]

- (1) システム管理者(スーパーユーザ)になります。
- (2) ダウンロードした圧縮ファイルを展開します。

```
# zcat mpnmsrt_V1.0.tar.Z | tar xvf -
```

- (3) 展開されたモジュールは、任意のフォルダで実行可能です。他のフォルダで使用する場合は、以下のようにコピーしてください。

```
# cp -p ./mpnmsrt (コピー先のフォルダ)
```

[Linux版 / Linux for Itanium版]

- (1) システム管理者(スーパーユーザ)になります。
- (2) ダウンロードした圧縮ファイルを展開します。

```
# gunzip mpnmsrt_V1.0.tar.gz  
# tar xvf mpnmsrt_V1.0.tar
```

- (3) 展開されたモジュールは、任意のフォルダで実行可能です。他のフォルダで使用する場合は、以下のようにコピーしてください。

```
# cp -p ./mpnmsrt (コピー先のフォルダ)
```



※詳細については「7. 異常時の対処方法」で説明します。

### 5-5. 実行結果(出力ファイル)

出力例

from [2008/10/03 06:00:00:000] to [2008/10/03 23:00:00:000] ~ 略 ~	
2008/10/03 06:30:00:000, ICMP SEND	[10.10.10.10]
2008/10/03 06:30:00:000, DOWN	[node01]
2008/10/03 07:30:00:000, ICMP SEND	[10.10.10.10]
2008/10/03 07:30:00:000, UP	[node01]
2008/10/03 07:30:00:000, DOWN -> UP	[node01]
2008/10/03 08:30:00:000, ICMP SEND	[10.10.10.10]
2008/10/03 08:30:00:000, UP	[node01]
~ 略 ~	
2008/10/03 16:30:00:000, ICMP SEND	[10.10.10.10]
2008/10/03 16:30:00:000, UP	[node01]
2008/10/03 17:30:00:000, ICMP SEND	[10.10.10.10]
2008/10/03 17:30:00:000, DOWN	[node01]
2008/10/03 17:30:00:000, UP -> DOWN	[node01]
2008/10/03 18:30:00:000, ICMP SEND	[10.10.10.10]
2008/10/03 18:30:00:000, DOWN	[node01]

書式

1 行目	from [開始日時] to [終了日時] 管理サーバ (バージョン)
2 行目	区切り線
3 行目以降	日時, 履歴の内容 [被監視ノード]

1 行目:

開始日時:

参照可能な監視履歴の最も古い日時が、  
“年/月/日 時:分:秒:ミリ秒”の書式で出力されます。

終了日時:

参照可能な監視履歴の最も新しい日時が、  
“年/月/日 時:分:秒:ミリ秒”の書式で出力されます。

管理サーバ:

稼働状態(ノード状態)の監視を行っている管理サーバのホスト名が出力されます。

バージョン:

本コマンドのバージョン情報が出力されます。

3 行目以降:

日時:

監視履歴の日時が、“年/月/日 時:分:秒:ミリ秒”の書式で出力されます。

履歴の内容:

監視履歴の内容が以下の表記で出力されます。

```

"ICMP SEND"      . . . ICMP要求
"UP"             . . . ICMPによる判定結果(起動)
"DOWN"          . . . ICMPによる判定結果(停止)
"DOWN -> UP"    . . . 状態遷移イベントの通知(停止→起動)
"UP -> DOWN"   . . . 状態遷移イベントの通知(起動→停止)
"AUTO RECOVERY" . . . 状態遷移イベントの対処
  
```

被監視ノード:

履歴の内容により、被監視ノードのIPアドレスまたはホスト名が出力されます。

```

ICMP要求          . . . IPアドレス
ICMPによる判定結果 . . . ホスト名
状態遷移イベントの通知 . . . ホスト名
状態遷移イベントの対処 . . . ホスト名
  
```

### 5-6. 実行条件

[Windows版 / Windows for Itanium版]

Administrators権限が必要です。

[Solaris版 / Linux版 / Linux for Itanium版]

システム管理者(スーパーユーザ)権限が必要です。

## 6. 注意事項

### 6-1. 本コマンドの格納先フォルダについて

- フルパスが128バイト以内になるフォルダに格納してください。
- 本コマンドは格納先フォルダ内にファイルを作成するため、フォルダには書き込み権限を付加してください。
- フォルダ内には、本コマンド名で始まる名前のファイルやフォルダなどを格納し

ないでください。

## 6-2. 本コマンドの実行について

- ・本コマンドは多重起動できません。
- ・本コマンドの実行時に 60MB 以上の空きディスク容量が必要です。
- ・本コマンドの実行時に 15MB 以上の利用可能なメモリが必要です。

## 7. 異常時の対処方法

本コマンドで表示されるエラーメッセージの内容と対処方法について説明します。説明に従って対処後、再度本コマンドを実行してください。以下の方法で解決できない場合は、「8. 解決できない場合」を参照してください。

```
mpnmnsrt: no right to operate.
```

実行に必要な権限がありません。

- ・本コマンドの実行条件を確認してください。  
「5. コマンド」の「5-6. 実行条件」を参照してください。

```
mpnmnsrt: invalid argument.  
usage: mpnmnsrt -a IPAddress -h HostName -o OutputFile
```

オプションの形式または内容が不正です。

- ・使用方法に従ってオプションを指定しなおしてください。  
「5. コマンド」の「5-1. 形式」を参照してください。

```
mpnmnsrt: already executed.
```

本コマンドが既に実行されています。

- ・実行されている場合  
終了するまでお待ちください。
- ・実行されていない場合
  - (1) 本コマンドが格納されているフォルダ内に “mpnmnsrt.lock” ファイルが存在する場合、“mpnmnsrt.lock” ファイルを削除してください。
  - (2) 本コマンドが格納されているフォルダ内に “mpnmnsrt.lock” ファイルが存在しない場合既に解決している可能性があるため、再試行してください。

```
mpnmnsrt: exclusive error.
```

多重起動防止の設定に失敗しました。

- ・本コマンドが格納されているフォルダを確認してください。  
「6. 注意事項」の「6-1. 本コマンドの格納先フォルダについて」を参照してください。
- ・本コマンド実行時のパスが長すぎる場合  
カレントフォルダを、実行パスが短くなるように移動するか、または本コマンドが格納されているフォルダへ移動してください。

```
mpnmnsrt: invalid registry.
```

レジストリの読み込みに失敗しました。

- ・Systemwalker Centric Manager がインストールされていないか、またはレジストリの設定が不正です。
- ・「8. 解決できない場合」を参照してください。

```
mpnmnsrt: invalid history.
```

稼働状態(ノード状態)の監視履歴が不正です。

- ・「8. 解決できない場合」を参照してください。

```
mpnmnsrt: access error. [history]
```

稼働状態(ノード状態)の監視履歴にアクセスする際にエラーが発生しました。

- ・「8. 解決できない場合」を参照してください。

```
mpnmnsrt: reference error. [history]
```

稼働状態(ノード状態)の監視履歴の参照中にエラーが発生しました。

- ・「8. 解決できない場合」を参照してください。

mpnmnsrt: open error. [temporary file]

- 本コマンドの作業ファイルのオープンに失敗しました。
- ・本コマンドが格納されているフォルダを確認してください。  
「6. 注意事項」の「6-1. 本コマンドの格納先フォルダについて」を参照してください。
  - ・本コマンド実行時のパスが長すぎる場合  
カレントフォルダを、実行パスが短くなるように移動するか、または本コマンドが格納されているフォルダへ移動してください。

mpnmnsrt: open error. [%1]

- 出力ファイルが作成できませんでした。
- %1: オプションで指定した出力ファイル名
- ・本コマンドが格納されているフォルダを確認してください。  
「6. 注意事項」の「6-1. 本コマンドの格納先フォルダについて」を参照してください。
  - ・本コマンドが格納されているフォルダ内に、指定した出力ファイル名と同じ名前のフォルダが存在する場合
    - (1) 別のファイル名を指定してください。
    - (2) 本コマンドを他のフォルダへ移動してください。
    - (3) 指定した出力ファイル名と同じ名前のフォルダを削除してください。
  - ・本コマンドが格納されているフォルダ内に、指定した出力ファイル名と同じ名前のファイルが存在し、ファイルに書き込み権限が無い場合
    - (1) 別のファイル名を指定してください。
    - (2) 本コマンドを他のフォルダへ移動してください。
    - (3) 既存ファイルに書き込み権限を付加してください。
    - (4) 既存ファイルを削除してください。
  - ・本コマンド実行時のパス+指定した出力ファイル名が長すぎる場合
    - (1) 短いファイル名を指定してください。
    - (2) カレントフォルダを、実行パスが短くなるように移動するか、または本コマンドが格納されているフォルダへ移動してください。
  - ・本コマンドが格納されているフォルダのフルパス+指定した出力ファイル名が長すぎる場合
    - (1) 短いファイル名を指定してください。
    - (2) 本コマンドを、フルパスが短くなるフォルダへ移動してください。

mpnmnsrt: close error. [%1]

- %1ファイルのクローズに失敗しました。
- %1: オプションで指定した出力ファイル名  
または、"temporary file" (本コマンドの作業ファイル)
- ・ディスクの空き領域を確認してください。  
「6. 注意事項」の「6-2. 本コマンドの実行について」を参照してください。

mpnmnsrt: read error. [temporary file]

- 本コマンドの作業ファイルの読み込みに失敗しました。
- ・「8. 解決できない場合」を参照してください。

mpnmnsrt: write error. [%1]

- %1ファイルへの書き込みに失敗しました。
- %1: オプションで指定した出力ファイル名  
または、"temporary file" (本コマンドの作業ファイル)
- ・ディスクの空き領域を確認してください。  
「6. 注意事項」の「6-2. 本コマンドの実行について」を参照してください。

mpnmnsrt: no such data.

- 該当する履歴がありません。
- ・Systemwalker Centric Manager がインストールされていないか、またはサポート対象のインストール種別ではありません。
  - ・稼働状態(ノード状態)の監視のポリシーを確認してください。
  - ・本コマンド実行時に指定したIPアドレスやホスト名を確認してください。

mpnmnsrt: insufficient memory.

- 利用可能なメモリが不足しています。
- ・利用可能なメモリを確認してください。  
「6. 注意事項」の「6-2. 本コマンドの実行について」を参照してください。

い。

```
mpnmnsrt: unexpected error.
```

予期せぬエラーが発生しました。  
・「8. 解決できない場合」を参照してください。

```
mpnmnsrt: finished.
```

終了しましたが、何らかのエラーが発生している可能性があります。  
・「8. 解決できない場合」を参照してください。

## 8. 解決できない場合

「7. 異常時の対処方法」で解決できない場合は以下の資料を採取し、技術員に連絡してください。

- (1) 実行した本コマンド。
- (2) 本コマンド実行時のメッセージ。(コマンド実行行からメッセージまで)
- (3) 本コマンドが格納されているフォルダ内のファイル名一覧。

以下のコマンドの結果を採取してください。  
[WindowsおよびWindows for Itaniumの場合]

```
dir (本コマンドが格納されているフォルダ)
```

[Solaris、LinuxおよびLinux for Itaniumの場合]

```
# ls -la (本コマンドが格納されているフォルダ)
```

- (4) 保守情報収集ツールを使用し、[ネットワーク管理]の資料を採取してください。

保守情報収集ツールの使用方法については“Systemwalker Centric Manager メッセージ説明書” - “対処方法の各手順” - “保守情報の収集方法”を参照してください。